選挙を清く正しくするには

池本大明

衆議院の総選挙がまたやつて来るが、今春以来の政治闘争を顧みて今度の総選挙ほど日本の政治のあり方に重大な意味をもつものはない。

いつも公明選挙が叫ばれながら不明朗な寄附気の中で金力や情実が物をいつて有耶無耶裡に投票日となり某気なく選挙は終つてしまう。こんなことではいけないと其の度毎にいわれつゝも少しも改められないのは何故であろうか。それは候補者が厚かましいのを、選挙民が選挙というものを大切にしないことに因るのだといえる。日本の政界がこの頃のように混乱し議会が狂乱状態に陥るようでは此の際抜本的な体質改善をしなければ議会政治そのものが崩壊し、国の存立さえも危くなるようなことが起るかも知れない。

一方に金力権力を以て無理押しする保守党があり、片方に社会変革をやろうと企らむ革新党があつて、国民をないがしろに政治の主導権を握ろうと火花を散らし国を何処へもつてゆくかわからないようなこの頃の政情である。

保守といわず革新といわず既成政党や党員の悪いところをいやというほど見せつけられた国民は、善い政治家よい政党の出て来るのを待望している。

選挙で一番大切なことは、日本の国を国内的及国際的にどんな風に扱う人であり政党であるかということをはつきり認識することである。そして又思想が保守的であるか革新的であるかにも細心の注意を払わなければならない。

我々は世界に於ける日本の立場をどうするかという国際的な考慮に慎重でなければならない。

どうしたら良い選挙が行われるかということについて陳べたいことが山ほどあるが、許された紙面に限りがあるから、何よりも先ず一票を清く正しく使うことに絞り、主として違反の余地をなくするのに手つ取り早い方法について述べることゝする。

議会のあり方が狂乱状態に陥るこの節では、議会の構成員となる議員を送り出す根っこの選挙——その選挙の源となる一票——その一票を公明正大に行使するための選挙民の一人一人の心構えがしつかりしていて、選挙を大切にすることが最も肝要である。

選挙民がしつかりしておれば、いくら候補者や運動員やボスが誘惑しようとしても意のまゝにはならないのである。

選挙民がしつかりするということは、自分の一票が国の運命を左右するのだ、という自覚をもつことである。

若し候補者が法をくぐりて風呂敷や映画券や現ナマをばらまいたり、旅行に連れだしたり、御馳走をしたり利権で誘つたりすることがあつたら、そんな者には投票しないというだけの権威と、情実や義理にからまれない覚悟を選挙民が持てば候補者の暗躍は無くなるであろう。

選挙民はそれだけの信念をもつべきである。

金品供与や供宴と投票とは別だから投票しなければかまわん、貰れるものなら貰うたが得よ、食い放題、飲み放題、こんなよいことはない、などといつて自ら弁護してみても何のためにそんな金品が出て来るかを考えればそれを出したり受けたりすることが不純であることはわかつているはずである。

それで我々の出来る選挙粛正の手つ取り早い方法は、買収、供宴等をしたり、受けたりした事実を確認したら直ぐ匿名で警察へ投書することである。これが一番効果があるだろう。そうすることが国のため、郷土のため、自分のためであると思えば誰にでも簡単に出来る選挙粛正策である。

つまりこれは国民皆警察とでもいうべきもので、自分等の政治を自分等で守るための大義親を滅するの道である。

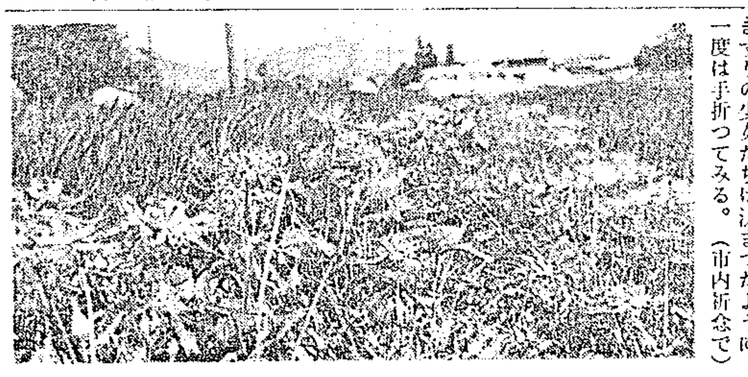
こうすれば悪質な選挙行為は払拭され、違反の余地は無くなるであろう。

但し投書する事柄は確かな実際の事でなければならないことはいう迄もない。ウソを言えば誣告罪に問われウソを証言すれば偽証の罪となるけれども、実際の違反行為を摘発して国民全体のための政治を正しく、明るくすることは何の罪にもならないのが当然であり、匿名であるから投書者の本名は知られないが、寧ろその勇気と誠意を買うべきであろう。

選挙病も慢性となり末期症状を呈する現今に於ては普通の施薬ではとても治らないから、思い切つて悪の根を断つため国民投書という荒療治で起死回生を図るより外はなかろう。敢て有志の勘考に俟つものである。

悪と知りながらズルズルと引き込まれたり、善と知りながら実行しないのでは何にもならないから、悪を捨てゝ善に就き——小我を抑えて大我を生かし——大義親をも滅して誠を尽し、国の危機を脱することに努めなければならない。

彼岸花咲く



野路では季節の花、彼岸花が咲き乱れてきた。赤い単調な花であつても、ゆきずりの少女たちは決まつたように、一度は手折つてみる。（市内祈念で）

「詩」梨園にて

あらしに痛んだ梨園の傷痕を
朝風がひそかになでてゆく
乾いた冷い物音が変に物寂しいのを
けさわたしは知つた
あれはわたしに年輪を思いださせる季節
の感触だろうか
あらしに傷つけられた後
梨園にはもう実りの秋と呼ぶべきものは
何もない
ただ収穫のすんだ疲労感が取り乱した
女の肢体を思わせるだけだ
幾年月わたしは梨園で収穫の夢を
見つづけてきた
あすも同じしつこくの夢を見るにちがい
ない
激しかつた夏の労作の後
いま与えられた思案の時間に
わたしは大空の深みに向かつて大きく
深呼吸する
やがて大気は澄み透るだろう
わたしの胸にも透明の虹がかかるだろう

梨夫

市内名鑑

無形文化財 玉鋼使用の 稲生下田の鍛冶屋

松村義正

土佐の鍛造品は、古来名実ともに土佐特産品として全国的に名声をひろめているが、ここ稲生地区下田の梅鉢印吉光鍛工所（稲生局のやや西方県道沿い南側）は実に創業慶長元年以前とあつて、古い歴史をもつていることを知つた。

わが南国に覇を唱えた長曽我部氏は、かの関ケ原の一戦によつて不幸にも一篇の哀史を残して没落し、ついで藩祖山内大通公が遠州掛川から土佐国の大領主となつて慶長六年一月八日に多くの剣客、工匠、大工なを連れて入国せられた。

山内公の入国後真先に着手したのは、居城の高知築城であつた。築城は入国の前年慶長五年八月着工、同十五年の末に至る十年の歳月を経て高知（初め高智、竹林寺の高僧空鏡上人が名付けしもの）城の大工事は落成したのであつた。

この築城技術と相まつて土佐古来の刀剣製法、刃物製作技術は必然的に大改良を加えられ、質量ともに大躍進を見た。

この頃土佐工匠の中に刀匠土佐貞次と、安芸郡田野の住中島家（海部氏善）及び刀工中沢重氏という名刀匠があつた。この重氏が〃下田の鍛冶屋〃の当主中村大次郎氏方の元祖である。初代中沢重氏（里改田城主中沢重清の後裔であろう）—二代重次（高知城追手門の金具の作者）—三代目より福重姓を名乗り八代目より中村姓を名乗る。

初代より梅鉢と号して山内公に従い刀利を製し、また高知城築城のために、主に山林用具及び刃物を製し、今日の土佐刃物の技術の基を開いている。

四代福重作衛門—五代長左衛門（土佐鍔の開祖、天明寛政頃の人で片地村誌には尾立孫八この長左衛門から鍔製作の技術を習得して片地に移つたとある。）—六代幸左衛門—七代幸次—八代中村亀次（土佐吉光と号して中村家に養子縁組している。この中村家は大津城主天竺花氏の末子中村三郎左衛門花清の後裔である）以上代々刀匠家で、九代重亀—十代当主中村大次郎、中村清の両氏に先祖伝来の鍛工技術が伝えられて今日に及んでいる。

大正中期まで玉鋼により大鋼製作していたが、洋鋼販の進出によつて鋼製作は中止して、専ら刃物の製作に精進しているという。

本稿は同地井川の松岡庸樹翁（八十八才）から直接教えて頂いた事と 当主中村大次郎氏の〃土佐と刃物〃の記述を総合して、史的な処に聊か私見を加えたが、ここに特筆すべきは無形文化財玉鋼（たまはがね）である。

玉鋼は神話時代に発端して今日まで二千〜三千年の歴史と伝説をもち、日本独得の製鋼法によつて諸成分や科学的な諸性質は刃物鋼としてして現在如何なる鋼をもつてしても足もとに及ばないといわれている。

南国市今月の税金

十月は本年度県市民税第三期分の納期（十月一日—三十一日）です。市税務課では次の通り出張徴収をしますから期限内、納税に御協力下さい。

地区	月日	時間	場所
上倉	10月27日	前11時30分—後1時	黒滝農協支所
〃	10月28日	前10時—正午	奈路農協支所
瓶岩	〃	後1時30分—後3時	瓶岩農協
日章	〃	前9時—正午	久枝公民館
〃	〃	後1時—後4時	下島浜公民館
大篠	〃	前9時—正午	朝日町北公民館
〃	〃	後1時—後4時	能間公民館
三和	〃	前9時—後4時	片山公民館
稲生	〃	前9時—正午	稲生西谷消防屯所
〃	〃	後1時—後4時	稲生立石公民館
十市	〃	前9時—正午	劔尾公民館
〃	〃	後1時—後3時30分	園芸組合
瓶岩	10月29日	前10時—前11時	成合農協支所
長岡	〃	前9時—正午	長岡東部公民館
大篠	〃	前9時—正午	明見公民館
〃	〃	前9時—正午	篠原南公民館
大篠伊達野	〃	前9時—正午	住吉野公民館
上倉	10月31日	前9時30分—正午	上倉農協
久礼田	〃	前9時30分—正午	旧久礼田村役場
国府	〃	前8時30分—後4時	国府農協
長岡	〃	前9時—後4時	長岡東部公民館
大篠	〃	前9時—後4時	竹中公民館
三和	〃	前9時—後4時	浜改田公民館
十市	〃	前9時—正午	大小浜公民館
〃	〃	後1時—後3時30分	阿戸公民館
稲生	〃	前9時—後3時30分	旧稲生出張所
前浜	〃	前9時—正午	前浜里公民館
〃	〃	後1時—後4時	前浜中組公民館
岩	〃	前9時—後4時	旧岩村役場

◉伊達野地区は住吉野公民館え、岡豊地区は岡豊支所え、野田地区、旧後免地区、稲吉、東崎西部、宇田、野中地区は市役所本庁え納めて下さい。

あとがき

本号は市民の声を特集してみた。うづもれた声はあらゆるところにあるもので、その声はとうとい。集録したこれらの声を、なんらかの形でこんどの市政に反映してくれるだろうと、期待するのは私したちのみではあるまい。

▽秋の日は柔らかく親しみも湧いてくる。夜は夜で、灯下親しむの候だとむかしからいわれている。大いに書物を読んで身につけてもらいたい。勉強に弱い編集子も手もとの本をめくつてみるなどすこしでも広報の質をよくするよう努力しよう。

▽来月は選挙の月、なにか選挙に関する読物や、ご意見などの寄稿があれば、なにか参考になつて面白くはなかろうか。選挙の投票区が一部変更になつたが次号に掲載したい。

▽なにか面白い欄をもうけたいと思つている。例えば「一家庭における医学の話」など、または「私の稲作」とかいうリレー式のようなもの…投稿を歓迎しますが、広報の形態からいつて意見はなるべく短かく簡潔なものを希望します。

文具図書なら
神明商店
後免町横町
電話76